

避難者発言 補充資料

被災地応援 赤いスイーツ

神戸に避難 ママさんグループ考案

東日本大震災で夫を福島県などに被災地に残して子どもと神戸市内に避難している母親たちのグループ「ベッコママ」が、同市内の洋菓子店の協力を得て、オリジナルのロールケーキを作った。福島県の郷土玩具「赤べこ」をイメージし、赤いラスベリをふんだんに使った自信作。3日から販売し、売上金の一部を被災地に暮らす母子の支援団体に寄付する。

（川添響子）

「ベッコ」は、神戸市内の子育て支援団体が催した避難者支援イベントで知り合った福島、宮城両県出身の母親ら7人が、「支援を受けるだけでなく、自立するための活動を考えよう」と7月に設立。8月には、東北の被災3県の物産品を販売した。

震災から半年が過ぎ、図らずも神戸で長く暮らすことになったメンバーは「支援者への恩返しと被災地支援に役立つものを」と、神戸で人気のスイーツに着目。この話を聞いた洋菓子店「美術」（神戸市中央区）のオーナー、パティシエ千賀篤さん（52）とメンバーがレシピを考え、子どもが食べ

福島の郷土玩具イメージ 3日から販売



ロールケーキの完成を喜ぶ千賀さん（中央）と「ベッコママ」のメンバーら（神戸市中央区で）

やすい味と食感を重視して牛乳とラスベリを使った甘酸っぱいロールケーキを完成させた。

3日は、神戸市長田区の六間道商店街で開かれる子育てイベント「メルレー」で、一切れ200円で売り出す。以降、同商店街のNPO「ウィズネイチャー」事務所（毎週日曜、1日16本（1本1500円）を限り、621・3127）へ。

朝日新聞 2011.11.1

第3種郵便物認可

ケーキ販売
自立に弾み

福島の母親ら「ベッコママ」ロール

福島第一原発の事故後、福島県内から神戸市内に避難してきた母親たちのグループがロールケーキの販売を始め。売り上げの一部を福島と神戸の交通費など二重生活でかさむ生活費に充てるのが狙いで、神戸の育児支援団体や人気洋菓子店がサポートする。

神戸の洋菓子店協力

福島から避難してきた母親たち8人がこの夏立ち上げた「ベッコママ」。支援を受けるだけでなく、自立していくために、洋菓子店の販売を考えたという。神戸の育児支援団体の紹介で、神戸市中央区の人気洋菓子店「美術」が全面協力。ベッコママが原価を負担し、同店にロールケーキを作ってもらって販売する。

ロールケーキは、木イチゴの果汁が練り込まれた赤いスポンジで、木イチゴの果肉と生クリーム、カスタードクリームをくるんでいる。「ベッコロール」

イベントでは一切れ200円で約1000切れを販売。その後は、ベッコママの支援を続ける神戸の育児支援NPO法人のウィズネイチャー（神戸市長田区三葉町5丁目）の事務所（毎週日曜日に1本1500円で販売する。ただし、4日前までの予約が必要。美術では販売しない）。

問い合わせはウィズネイチャー（078・621・3127）へ。

（井石啓司）

★べこっこMAMA×美侑 PRESENTS★

べこっこロール

東日本大震災で神戸に避難してきた東北ママのグループ【べこっこMama】が神戸・旧居留地の大人気ケーキショップ【美侑】さんとコラボしてできあがった、とってもスペシャルなロールケーキです♪

べこっこをイメージした真っ赤なスポンジは、甘酸っぱいイチゴがたっぷり！中は優しい味わいの滑らか生クリームに、よくばりカスタードクリームも入ってなんとも絶妙なおいしさです☆ ぜひお試しください～い！！(*^▽^*)



1本
¥1,500(税込)

保存料・着色料は一切使用していません。
厳選された信頼のおける原材料にて製造しております。

毎週日曜日 13:00～16:00に ウィズネイチャーにて販売いたします。
数に限りがございますので、4日前までにご予約の上、下記へお越し下さい。

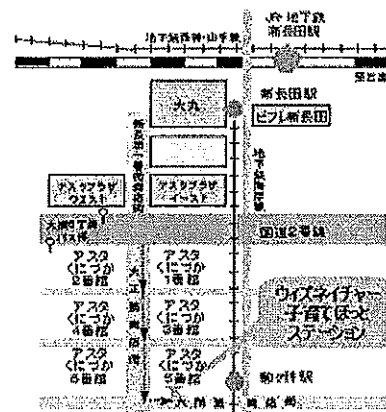
(【美侑】さんでの販売・問い合わせ対応は、一切行っておりません)

※収益の一部は、被災地で不安を抱える母子への支援に使われます。

販売場所 【子育て支援NPO法人 ウィズネイチャー】
神戸市長田区二葉町5-1-1 アスタくにづか5番館110

TEL/FAX 078-621-3127

メール bekokkomama@gmail.com



べこっこMamaとは、愛する子どもたちの安全を考えて神戸に避難してきたママたちのグループです。
べこは東北弁で牛、べこっこは子牛のこと。
強くて優しい母牛のように、大切な子どもたちを守り育てたい。
震災を経験したべこっこ(神戸)のママたちのお力添えを受けて、
新たな生活で自立していくための第一歩が、
このべこっこロールの販売です。
みなさま、どうぞ応援よろしくお願いたします！

開設します！

こうふくネット

〈こうふくネット〉(仮称)

東日本大震災と原発事故の影響で福島から来られたみなさん。ようこそ、神戸、兵庫にいらっしゃいました！慣れない土地で、気軽に話せる人、相談できる人があまりいないのではないのでしょうか？

みなさんが、こちらでスムーズに、楽しく生活できるよう、福島県出身者同士がつなぐ、支援者ともつながれる連絡会を作ることになりました。親睦、情報交換の場として利用していただければ幸いです。こんなことができる場を作ります。

メーリングリストによる福島出身者同士の親睦・情報交換

掲示板を使った相談、支援者・市民との交流など

福島からの情報提供、福島への発信

*全て携帯でやりとりできるように考えています。

【発起人より】神戸在住の井坂泰成と申します。私は、5月から8月までいわき市に滞在し、復旧活動、被災者支援活動に従事してきました。9月には福島市で、除染や避難に取り組むみなさんと交流し、生の声を聞いてきました。現在は、神戸で避難者のみなさんとの交流しながら、今後避難を考えている福島のみなさんへの情報提供をしています。福島の事情は他の被災地とはまた異なり、複雑で困難と承知しています。“自主避難”の場合は支援も得られにくく大変です。それだけに、みなさんがつながれる場が必要ではないかと思いついた次第です。MLも掲示板もただいま開設準備中ですので、みなさんの要望をお聞きしてそれを反映させたものにしたと考えています。

趣旨に賛同し、参加を希望される方は、私までご連絡いただければ幸いです。以下のアドレスにメールをくださるか、お電話ください。

携帯メール yasisaka@ezweb.ne.jp

PCメール y.isaka@peace.email.ne.jp

電話 090-3995-7643

件名を「こうふくネット参加希望」として、お名前をメール/携帯メールで送っていただければ結構です。

折り返し、ご連絡いたします。(登録無料)

「こうふくネット」(仮称)

管理人 井坂泰成

〒654-0151 神戸市須磨区北落合 4-24-15

協力 暮らしサポート 隊

神戸ぼけっとnet.

CS神戸復興情報センター

(あいえお願)



第1回 滋賀県内避難者交流会

私たちは思い出深いふるさとを離れ、慣れない土地で生活しています。

避難者にしか分からない思いを、避難者同士で話し合しましょう。

【日時】 12月 4日(日) 午後1:30-4:30

【場所】 野洲市「野洲文化小劇場」JR野洲駅南口徒歩5分

◆会場の駐車場に限りがあります。なるべく電車でおいでください。

【対象】 東日本大震災を機に、滋賀県に避難されて来た方

【内容】 お茶、お菓子を楽しみながらの座談・交流

他に◆「滋賀県内避難者の会(仮称)」の立ち上げについて

◆行政、弁護士、司法書士、民間の支援内容の紹介

お子さんと遊ぶボランティアもいますので、小さなお子さん連れの方も
お気軽にご参加ください

【参加費】 無料

【お申し込み・お問い合わせ】 申し込み締め切り12/2(金)

◆滋賀県内避難者の会(仮称) E-mail studycp@willcom.com

メールにて ■お名前 ■年齢 ■電話番号 ■お子さん連れの方はお子さんの年齢

■避難元、避難先(例)郡山市から草津市 ※以上を12月2日(金)までに送信してください。

※頂いた個人情報は、この交流会以外では使用しません。

またメールをご利用できない方は 070-5017-1452(井上)までお電話ください。

発起人 井上宗純(福島市→大津市) 遠藤正一(郡山市→野洲市) 廣井善康(いわき市→野洲市)

※今回の交流会には不参加でも、今後お知らせを差し上げて構わない方はメールをお願いします。

主催 滋賀県内避難者の会

共催 滋賀県社会福祉協議会 野洲市市民活動支援センター

生活協同組合コープしが しがNPO災害ボランティアネットワーク

後援 滋賀県

会場案内 野洲文化小劇場

■ JR琵琶湖線 野洲駅南口から徒歩5分 野洲文化ホールの隣

■ JR野洲駅までの所要時間

JR大津駅から 新快速で20分 快速で25分程度

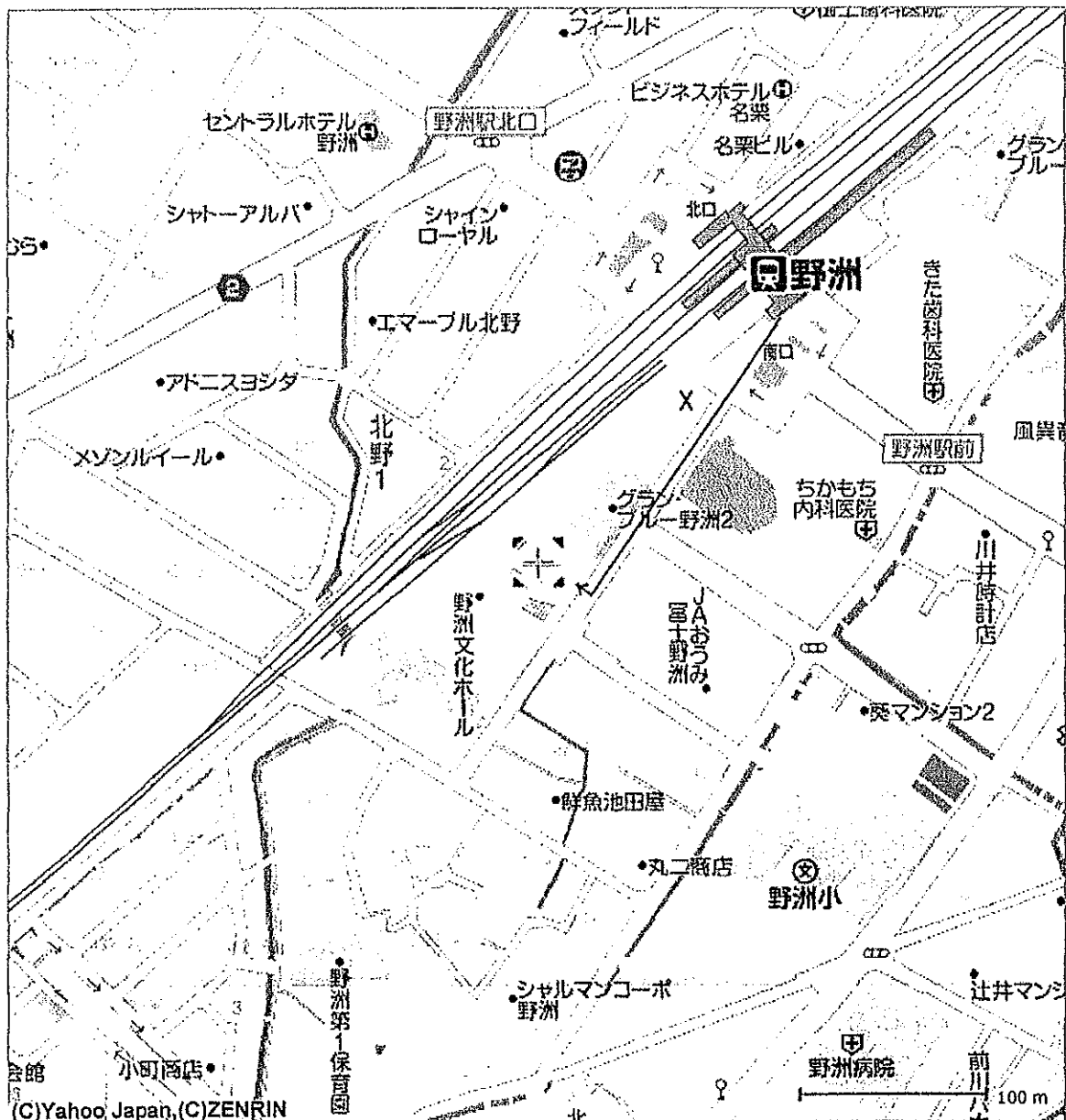
JR彦根駅から 30分程度

JR長浜駅から 50分程度

JR近江今津駅から 1時間15分程度 (山科乗換え)

■ お車でお越しの場合

名神高速道路 栗東ICより約15分 竜王ICより約20分



☆大手筋ほっこりひろば☆のご案内

東日本大震災により京都に避難してこられた皆さまへ

避難してこられた方々が、情報交換をしたり、つながりをつくるきっかけになればと☆大手筋ほっこりひろば☆を7月より開設しておりましたが、東北や関東から避難されて来られた方々にご参加していただき、ひろばを9月以降も引き続き開室することになりました。

これまでにご参加いただいた皆様にも、また新しくご参加いただける皆様にも、このひろばが慣れない土地での暮らしの中で、ほっとできる場所になったり、少しでも支えになるような場所になればと思っております。ぜひ引き続きご利用下さい。



ばしよ：ぶんきょうサテキャン伏見大手筋
大手筋文化センターコスモス（ぱおぱおの家2階）

伏見大手筋商店街 二番街 モスバーガーとなり

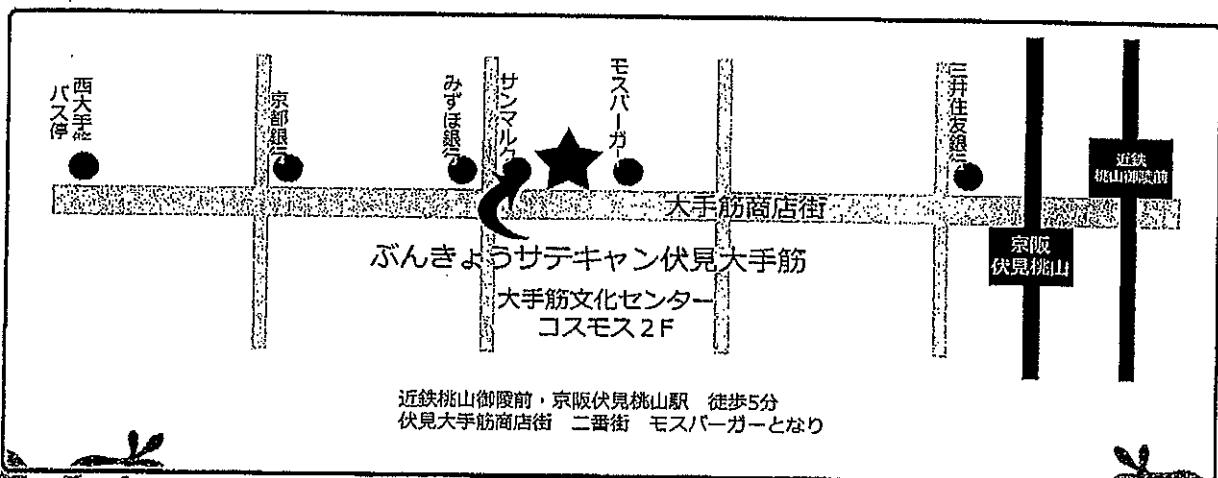
お越しの際はインターホンで呼び出しを御願いたします。

にちじ：毎週火曜日 10:30～12:00



東北、関東どこの地方からでも避難してこられた方であればご参加いただけます。長期的に避難されている方も、短期間避難されている方にもご利用いただければと思います。お子様連れでも大丈夫です。途中の時間からの参加や、一度だけの参加、お買い物の途中にちょっとのぞいてみるだけでもかまいません。ご参加お待ちしております。

大手筋ほっこりひろばは、京都文教大学のご協力で開設させていただいております。震災や避難にともなうストレスや悩みごとを個別に相談できる場所のご紹介もできますのでお声がけ下さい。



お問合せ先：ootesujihokkorihiroba@gmail.com

シンポジウム「広域避難者に、今、求められるもの」

～避難者の実情と課題～

避難者スピーチ資料

「避難者としてのネットワーク作りの大切さ」

関西県外避難者の会 福島フォーラム 遠藤雅彦

□大阪へ避難して

○私は福島県いわき市の豊間より大阪府大阪市東淀川区に避難してきました。自宅は津波により流出してしまったためにありません。大阪には友人が多くいるため身を寄せて助けて頂きました。その後はさまざまな場所で自分の被災経験を話して、大阪の方や特に若い方に防災意識と、災害の時こそ人と人とのつながりが大事だと言うことを伝えて回っていました。その中で、支援者の方やNGOの方と知り合いました。夏に福島取材していたカメラマンの方を通じて福島市の方を紹介頂きました。その方が Twieer で知り合いであったこともあり滋賀県へ避難してくるのことでしたので、連絡を取らせて頂き、ネットワーク作りを提案しました。

ネットワーク作りを提案したのは避難生活を続ける中で自らが抱える

「生活・仕事・医療・賠償」

などの問題が自分だけでは解決できないと感じ、福島県人のネットワークを作る必要があると考えたんです。

まず、お互いの情報を話し合っって震災に効果的に対応する仕組みを避難者の声で行政など協力頂ける機関に働きかけることが必要です。

※問題点については別紙参照。

活動を続ける中で大阪弁護士会さんを通じて避難された方の各世帯に私の活動を紹介頂きましたが、それ以前は twitter など地道に活動していました。福島県の抱える問題は福島第一原子力発電所からの放射能汚染をうけて避難者の現状が、とても複雑になっています。

だからこそ、お互いの声を出し合ってまとまる必要があるのではないか、避難者の置かれた状況を発信して支援を円滑にできないか、と考えました。また、避難者がもっている困難を解決して助ける取り組みが必要だと感じました。それには避難者同士で相談が気軽に出来るネットワークが有効です。

今現在の活動としては滋賀県長浜市では副代表の方が長浜市市長さんの協力を得て地域の防災に避難者の意見を取り入れて頂き、ガイガーカウンターの配備を決定して頂きました。

大阪では、ジョブのみつからない避難者の方へ向けて兵庫県のNGO協働センターさんと協力して阪神大震災の時からスタートした内職支援も行っています。

また、私は県外避難者西日本連絡会 まるっと西日本の大阪での世話役もさせて頂いています。大阪府内については避難者全体に呼びかけをしていきます。

関西地域の福島の方は滋賀県・京都府・大阪府の方とつながりが出来てきました。

関西各地も含め、地域ごとにさまざまな避難者ネットワークが立ち上がっています。ここ大阪でも同様に各方面でまとまりが出来ています。

今後は避難者のネットワーク化支援に加えてネットワークと協力した支援体制が必要になると考えています。そのためにも是非ご協力ください。

つながりのまだ無いか方へのフォローもしていきたいです。



2011年12月3日シンポジウム

「広域避難者に、今、求められるもの」

～避難者の実情と課題～

関西県外避難者の会 福島フォーラム 遠藤雅彦

これまでネットワーク作りをしていく中で感じた避難後の課題についてまとめました。まだまだ把握できていないこともあると思います。私たち避難者が良く自立していく上ではお互いの問題を話し合い解決していくことも必要です。どうしても個々の世帯だけでは解決しづらい問題もあります。以下は簡単ではありますがポイントごとに課題をまとめました。

ご意見ご感想、また今ご自分が抱えていて相談先がわからない問題がありましたら相談会までお寄せください。

□避難生活の問題「問題は多岐に渡る」

避難後の生活は家財・衣類の有無を含めて生活の立て直しのためにたくさんの費用が必要になりました。仕事がうまく見つければ良いのですが、そうでなければ震災後約9ヶ月が経ち、生活が厳しくなっている避難者の方もいらっしゃいます。最後に述べていますが、避難範囲についての考え方も放射能汚染の実情を踏まえるなら改める必要があります。

物資面→8月以降も避難した方はいるので再度、避難者のニーズをきちんと掴む必要がある。津波・放射能汚染の問題を抱えていると家財が持ち込めない。

冬季は冬服の融通などのイベントが行われているが、寝具など継続して提供出来る体制が必要。

精神面→お互いの交流を深めて孤立を避けるべき

差別経験者も多々いる。

この問題がとても重要で、孤立してしまうと相談会や協力頂いている弁護士会、行政窓口も対応が困難になる。また、差別問題が自分の身分を明かしたくないという意識に繋がっている。このことがさらに支援を考えて行く上では、避難者へマイナスに働いている。

避難者として安心して相談できるネットワーク体制が必要。

行政面→対応窓口や支援制度を設けてくださっているのですが、行政ごとの対応がまちまちであるため、避難者がうまく相談できていない。相談窓口がわからないという声を聞くので、整理する必要がある。

また、避難者全員が全国避難者情報ネットワークシステムに登録しているわけではないので行政側も問題把握が困難である。

現状では避難者が避難者へ情報発信を行う場合もあり、残念ながらうまく機能していない。相談先がわからない避難者はTwitterやブログなどを使い、避難者が作るネットワークにたどり着く等している。

その結果行政の助けが必要になるなど支援者ネットワークがハブの役割をしている。

全国避難者情報ネットワークシステムについては地元自治体の対応力によって届く情報が大きく異なる。

関西で出来ることは関西の対応水準を上げて、窓口を整理することである。また、避難者が作ったネットワークには相談が集まりやすく、同じ境遇の方には相談しやすいのでお互いが、行政と避難者ネットワークが協力して情報の浸透をお互いに支援していくべきである。

居住面→関西の多くの地区が半年から1年の住居貸与であったが、原発事故について現状は収束の目処はたっていない。

まずは住居貸与の延長が必要。今年度以降の見通しが立たないことが避難者に大きく不安を与えているし、ジョブを見つける上でのネックになっている。

関西も北海道などと同様に2年間の貸与を検討するべき。すでに滋賀県大津市が採用。

仕事面→避難者として条件の合うジョブが見つからない。

40代以上の方は再就職困難なため避難できない。

生活の再貧困が起き始めている。

ジョブの紹介を受けても住民票の登録が仕事に必要な場合がありネックになっている。母子のみの避難の方は一時的な託児所の支援など仕事につける支援が必要である。

医療面→急性被曝症状の疑いのある人が存在している。

避難した後の被曝検査・医療が必要である。また、体制を整えるべきである。

特に尿検査などは汚染地域から避難してすぐでないとい内部被曝量の確認ができない。

また、この問題は差別の問題と深くかかわるため避難者が相談しづらいものとなっている。

教育面→子供たちが大変不安定な状況に置かれている。学区が変わると進路への考え方も大きく異なる。

また、二重生活を強いられる場合学費などを十分に配慮できない。

避難範囲の考え方

東日本大震災は津波被害が広範囲に渡っただけに留まらず放射能汚染がさらに広い地域に広まってしまった。福島第一原子力発電所より20kmに警戒区域、30kmの計画的避難区域に留まらず汚染は進行しており、それがたとえ県境を越えたからといって、放射能が県境で留まるものではない。

私は福島県民のネットワークを作るべく活動してきましたが、実情をとらえた対応が求められる今、放射能汚染の実際の広がりに基づいた支援を今一度考え直すべきです。

□賠償問題「賠償は正当になされるのか？」

20、30km 圏内避難者

福島県内外の自主避難者

→補償にすでに大きな差がある。

賠償については弁護士会さんが説明会をひらいてくださっています。

それでも避難者としてどう動いていったら良いのかわからない現状があります。

故に、賠償についての情報をきちんと把握できるようにアンテナを張っておく必要があります。今後、訴訟に発展していくこともあり得ます。

また、賠償の差が福島県民同士の意識交流を妨げている現状もあるので、共通の問題として協力して話し合える環境作りも必要です。

精神的賠償や物質的賠償

証明困難な部分をどう補うのか？考える必要があります。

加えて集団訴訟も検討の範囲内です。

何より医療面での健康被害のことも賠償問題として考えるべき。

□これからの避難・疎開について「被災は終わっていない」

これからも東日本から避難を行うものは増える。特に春休み以降の避難を考える声もある。今年度以降は、短期疎開などが出来る場所を紹介していく必要がある。避難できない理由としては家族間の理解に加えて経済的理由が主となっている。

特に現地への働きかけをどうしていくかも大きな課題である。

情報

→現地にもうまく届かない。

実際、行政が避難先の支援についての情報を出したがない。

受け入れ→疎開などの短期でも受け入れ体制を整えるべき。

避難者について現行の問題点を改善していくことが
これからの広域避難者と向き合うにはとても重要である。
二の轍を踏まない対策をしていくこと。

□その他の問題「国の基準について etc.」

食事面 →食料の放射性物質汚染基準の厳格化・可視化が必要

放射能汚染→セシウム以外の核種の広がりもきちんとマップ化すべき
α線・β線核種について区別して考えるべき

汚染されたものの取り扱い→各都市の汚染がれきの受け入れは危険。

これは私自身がスクリーニングによって被曝を確認したことからそう考えます。
また、子どもを守るために避難した方の意見も踏まえています。

以上、避難者に関わる問題をまとめましたが
支援を行う主体が「避難者から避難者」になっている状況は、
この広域に渡る東日本大震災では顕著であり、それは実際には避難者の負担によるところが大きいものもあります。
多くの方が東日本大震災への支援を考えてくださる中で、今後は避難者を助け

る避難者への支援を考えることも必要です。

つまり、避難者同士のネットワークと広域弁護士会・行政(社会福祉協議会含む)、各地の経営者団体などが連帯して取り組むことで、これから解決できる問題も多くあるのではないのでしょうか。

自分自身が1避難者としてネットワーク作りと避難者支援を考えるのは、現地で津波と放射能問題を経験して「お互いが助け合わなければ生きていけない」と強く感じたからです。

関西においては震災当初から支援を頂き感謝していますが、震災については「リアリティがない」など、離れた距離で起きた問題であるため、どうしても現実味を感じられないと言う言葉と良く聞いてきました。それは仕方がないことなんです。

故に、関西にある様々な避難者ネットワークはどうしても被災しないと感じられない「リアリティ」をもって対応しているから、それが避難者への共通意識となり、安心感をもたらすので避難者から相談を受けられるのです。

これはけっして行政・弁護士会などが劣っているわけではなくて、震災という特殊な経験がもたらす避けられない意識差なのです。

今後、広域避難者の支援を考え得る上ではこの避難者が抱える意識について配慮して問題解決に望んでいくべきです。

図. 避難者ネットワークと周囲とのハブとしてのつながり



「3月11日14時46分 自主避難者として経験した大震災と福島第一原子力発電所事故問題」

関西県外避難者の会 福島フォーラム 遠藤雅彦

被災の時に居た場所：自宅 福島県いわき市平豊間字塩屋町19

自宅の前 豊間海岸

被災状況 住宅滅失（流出）

この文章は私が自らの経験を伝えるために被災後の動きを整理してまとめたものです。経験談として参考にしていただければと思います。経験談には留まらず、現在の私の原発事故への考え方も入っていますがお読みいただければ有り難いです。

当時、原発事故について情報が錯綜する中で、私は幸い友人を通して東京電力関係者の方の避難情報を得ていわき市から移動を開始しました。この情報は多くの市民に語られることなく、政府からのアナウンスは原発事故の影響がほとんどないとするものばかりでした。私自身も自分が得た情報を知り合いに連絡しましたが信じてもらえなかったという経験をしています。

寄稿前の今日11月8日時点で、現枝野幸男内閣府特命担当大臣(当時、管内閣官房長官)は国会答弁にて、事故後すぐに繰り返し述べていた放射能の影響についての「ただちに人体あるいは健康に影響はない」という言葉について「・・・(当時)現在の事故の状況が一般論としてただちに健康に影響がないと言うことを申し上げたのではなくて、放射性物質が検出された牛乳については、(私が述べたのは)それが1年間同じ当該規制値の量を飲み続ければ健康に被害を及ぼす可能性があるということで定められた規制値についてのことで、万が一それを1度か2度摂取した場合には健康に影響を及ぼすものではない、このことを繰り返し述べたものであって・・・」という旨の発言を行い、事故後国民が国に問いかけた健康被害についての疑問に直接は答えていなかったということ、発言内容を補足することで意味を変えて、今後健康被害があり得ると言うことを今頃になって述べています。しかしこれは後出しのいいわけに過ぎず、当時「ただちに人体あるいは健康に影響はない」という言葉が、放射能汚染によるパニックを防ぐために政府からアナウンスされていました。政府の影響力は凄いもので、今現在も放射能の影響については福島県内ですが危機意識の持ち方が様々になっています。

こうした状況を引き起こした根本的な原因には一般市民の放射能についての

無教養や原発についての政治的無関心、そして行政を動かさず政治家と原子力ムラの癒着、有識者の無教養・無関心が挙げられると思います。特に無教養は、多くの人に影響を与える行政分野での対応能力の欠如として顕在化しました。既に多くの人々が被害を被ってしまいました。こうした状況を引き起こしてしまった責任は、必ず多くの人を巻き込んだ政府および有識者に問うていくべきだと私は考えます。

□ 震災当日からの動き

3月11日(金) その日はゆっくりとした朝を迎えていた。

昼頃風呂に入りすっきりして気分転換にドライブでもしようと思い、支度して外に出ようとドアノブを持って扉を開けた瞬間、景色が全て震えだして大地震が起こった。14時46分である。

ドドドドドドド・・・という大きな音と共に揺れはどんどん大きくなり止まらない。私はドアノブを掴んだまま立っているしかなかった。いったい何が起きているのか、揺れはいつ終わるのか、このまま家が倒壊したら助からない、これらが頭をよぎっていた。揺れは横揺れから大きな縦揺れに変わりしばらく長く揺れて落ち着き、揺れの種類の変化が体感でわかるほどはっきり出ていたと思う。段階的に揺れが大きくなっていったので、あと一段階揺れが大きくなったら、たぶん自分の生命は終わりだと思ったが、徐々に収まり家は倒壊することなく残った。

私はすぐに家に入り家族の無事を確認した。幸い母も祖父も無事だった。母は台所で動けず、祖父は自室にいたがタンスを押さえて助かった。テレビをつけると大津波警報である。

私は「避難するぞ」と母に言い準備を促した。祖父は避難することを最初はためらったが、避難する旨をしっかりと伝えて聞いて貰った。

母は足が悪い、祖父は昨年父が亡くなったことで気落ちして寝込みがちだった矢先であるから家族の避難準備を一番最初にしないと避難には間に合わないと感じた。そのときはあんな津波が来るとは思わなかったのだがそう感じた。

私は防寒着と財布、親父の形見のつもりで買った眼鏡とお守りをもって、外に出て、すぐに家族が乗り込めるよう庭に車庫から車を出しておいた。他の物はきっとまた持って行けると思い置いてきた。防寒だけ注意していた。

気がかりなのは働きに出ている弟であるが、電話はつながらないのでおそらく無事であろうと思い、行動を続けた。母の携帯電話がどこかへ飛んでしまったようだがそれはいいからと避難準備を続けてもらった。

そして、門を出て周囲の様子を確認した。塀が一部倒れていたのので後から直

さなければいけないなと思った。遠くを見ると杉林が花粉で霧がたったようになっている。天気は晴れていたかと思ったが水平線の上に層状の雲が大きくでている。雲は濃い霧のようで形がはっきりしない薄紫に近い灰色の層である。遠方で雷が低い音でバキバキ鳴っている。

雷はまずい、奥尻島の時も津波の前に雷が鳴ったという。強い揺れで津波のような変化が起きるとき大気も震えるため雷が起きる。雷が起きた場合確実に津波が来るのですぐに避難すべきなのだ。

しかしただ、海は静かな様子でいつもと変わりなかった。

隣のおばさんも無事だったようで避難を促した。雷が鳴っていて変だねと話していた。

近くの民宿のおじさんと会い、地域の防災のために堤防に高波をよける板を差した。これで高波が来ても大丈夫だとお互いに言った。

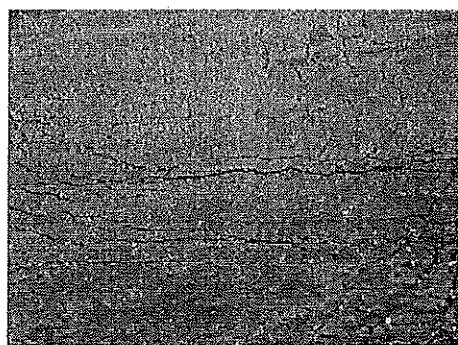
周りに倒壊した家はなかった。多くは塀が崩れただけで塩屋町の地震の被害はそんなに無い印象だった。

繰り返すが海の様子は潮位の変化はほとんど無く、豊間海岸はとても津波が来るような雰囲気では無かった。すくなくとも400年近く前、先祖が根を下ろしてから大津波は来たことがないのだ。

堤防に板を差した後、海の変化は無かったため砂浜を見た。すると、砂浜に亀裂が入っている。大きな地割れとはいかないが、広い範囲で砂浜が割れていたのを確認した。

15時04分 携帯の写メールにその様子を納めた。亀裂は縦横に入っているので違う種類の揺れが訪れたことがはっきりわかる。十字架のようだ。

今まで20年以上海を見てきたがこんな形で砂浜に地割れが起きたことはなかった。潮位の変化がない中、私が特に異常に感じたのはその点である。



写メールを撮ってすぐ家族が車に乗り込んだのを確認。民宿のおじさんに避難する旨を告げて避難を開始した。隣のおばさんがどこに逃げるのか聞いてきたので街まで逃げると伝えた。

車をスタートさせて逃げる先を考えた。最初は海沿いの灯台に行こうかと思ったが、もし津波が来たら間違いなく波と接触してしまう。進路を改めて内陸の太い道路から街へ向かうことにした。車を走らせると瓦が道路にたくさん落ちていたなど、地震の影響がはっきり見えて驚いた。避難している人はごく一部で、瓦や塀の掃除や犬の散歩を続ける人もいた。走って自宅の様子を見に行

く人もいた。途中でようやく消防車とすれ違い、避難するように呼びかけている。

私は太い道へ入り街へと向かった。街へ向かう太い道路はひとつしか無く、道すがら大きな橋を渡ることになる。小道もあるのだが狭い道であるため往來に不便で避難向きではないと判断した。

山を越える坂道には道路の陥没や隆起がありそれを躲しながら走った。陥没にタイヤがはまったら事故って動けなくなる。これが現実なのかどうなのか、異様な気持ちがあった。太い道路に入れば大丈夫だと思っていたのだが、道路状況は悪い。車通りについてはそこまで多くはなく渋滞はしなかった。

このとき、かろうじて同じ豊間に実家があり東京にいる友人と携帯電話がつながった。電話は津波到達以降、携帯電話の鉄塔が流されて繋がらなくなる。

その時東京の友人が言ったのは「(地元に対して、まだ支援などは) 何もできないよねえ? 状況が落ち着かないし・・・」という、危機感が完全に無いものだった。ここまで認識が違うほど、状況に差があるのかと感じた。その後、その友人は放射能問題については安全である旨のニュースを信じてしまう。

道路を進むと街へ行くにはどうしても橋を渡らなければならない橋がある。その200メートル手前にさしかかった時、橋が黒い濁流に飲まれた。橋を黒い電車が横切るようにすごい勢いで水が飲み込んでいる。自分が運転している車種はトヨタのポルテであったが、目線の高い車の運転席よりも、さらに高い位置に水はあったと思う。その黒い水の電車で車が三台くらい足を取られているのが見えた。黒い水は川に沿い勢いよく流れていたために、こちらにはこなかった。水の近くを平行して内陸部へ走る人もいた。白い作業着の格好を見ると、川沿いの沿岸部にあるかまぼこ工場の従業員たちであった。津波到達は15時07、8分頃である。

そのときは怖さよりも、どうしたら助かるのか、どう動けばよいのかを考えていた。家族は言葉を失っていた。ひとまずUターンして、空いていた駐車場に入り様子を見ようとしたが、母に動いた方が良いのではと言われ、30秒くらいで進路を逆にとり引き返し、狭い小道から再度同じ方向へ向かった。直接同じ橋は渡れないが水門が何か所かあるため、川の上流に向かえば津波の影響は少ないと考えて動いた。避難する車はそこで増えてきたが、津波には気づいていない様子だった。

小道に入ってその途中小さな橋があり、消防団の方がいたが道は封鎖されていなかったため橋を抜けて街へ出ることができた。橋は多少水があふれていたが車が渡れる程度だったので助かった。

行く当てがないのでコンビニへ向かいとりあえずの食事や飲み物を購入した。

ラジオを聞きながら状況把握に努めたがいわき市内のラジオでは道路の通行止め関連が大きく報じられ津波到達についてはほとんど述べられていなかったと思う。また原発については全く報道されていない。

街場では携帯電話は使うことができたが、携帯からネットは繋がらずさらにTwitterも閲覧できなかった。故にラジオを聞くしかなかった。

Twitterについては今回の被災で役に立ったと言われたが、津波の現場では閲覧不可能で役には立たなかった。栃木県宇都宮市まで逃げてようやく閲覧できたと思う。それまではつながらず、私はネットから全く情報が得られなかった。

ラジオでNTTから、緊急時のため市内の公衆電話を無料にするという報道があり、さっそく使用してみた。避難所がどこかわからないので消防署へ連絡して聞いてみたのだが、消防署の担当から「避難所はどこかわからないので、自分で探してください。市内はどこもめちゃくちゃで把握できない。」という旨の回答をもらい、事態がいかに深刻かをそこでようやく理解した。

こうした災害時のために消防署などの機関は備えていると思うのだが、それすら機能しない事態が福島県いわき市には訪れていた。消防署が避難者に避難所を把握していないから紹介出来ないということが異様に感じてならなかった。また、そこでようやく弟と連絡がとれて無事を確認し合流した。

コンビニへ向かう道の往来は海方面に向かう車が増え、自宅の様子を確認に向かうようだった。一息ついて状況を確認しているうちに何件か友人からメールが来ていたので返した。このあとしばらく回旋が混み合いメールなどは届かなくなる。

そうしているうちに、家族も少しは落ち着いたので、街場で魚屋さんを営む知り合いがどうなっているか確認するために駅前に行ってみた。16時～17時くらいだろうか、街は壊れてはいなかった。「平(街場)はぜんぜん普通だ。」と母と言いつつ。駅前はお店が閉まっているくらいで、まるで普通であったが、夕方からコンビニでは食料がたくさん買われていき、もうすでに食べ物が手に入りにくい状況になってきた。木造の民家などでは倒壊したものもあったそうだが確認出来なかった。知り合いの家のお店もすでに閉じていた。

またコンビニもどりしばらく待機して知覚の小学校へ向かうことにした。理由は小学校が避難所になっているのではないかと考えたからだ。コンビニよりも海側にあるのだが、豊間から近い場所で人が集まりそうなところはそこくらいしか思いつかなかった。

夕方には海方面へ向かう車より街場へ向かう車が多く渋滞が起きていた。昼間に自宅を見に行った車が引き返していくのと街場に避難を開始した人たちでいっぱいだった。

避難所には200名近い人がいたと思う。入り口には自分の名前を書いて無事

を報告する張り紙があり、各避難所を回って家族を捜す人もいた。付近の方がお米などを持ち寄ってくださり小さなおにぎりが一人一つ配られるなど皆が連帯して避難者を助けてくれていた。自衛隊が来たのは3月12日だったと思う。タンク車で水の配給が始まったのはその次の日3月13日である。

私たち家族は11日を小学校で一夜を明かし、その後避難所から親戚の家を渡り歩き、3月14日午前6時過ぎに津波当日にも見に行った魚屋の友人から放射能が来ている旨を伝え受けて、いわき市を出て郡山市へ行き、宇都宮市を經由して東京まで避難する。次の日私は大阪まで来て今日に至る。

テレビやラジオが放射能について危険性を何も伝えない中で私はこの幼なじみの友人から唯一放射能についての情報を得た。

情報の出所は友人のお店のお客さんで東電社員のご家族、早朝にたまたま会ったところ、彼らはこれから避難するところだったという。社員家族からの指示で「100km圏外」に逃げるように言われたのだそうだ。

友人は早朝にその話を聞いて郡山市に避難しており、その途中私らに連絡をくれたのだ。3月14日の郡山市は、友人が午前8時くらいに着いたとき、福島県沿岸部(浜通り)から来た避難者はスクリーニングで被曝状態を検査しないと避難所には受け入れられないと言われたそうだ。私たちも同じ心づもりをして郡山市に10時くらいに着いたのだが、その時は「スクリーニングは受ける必要はない。受けたい人だけうけるように」という対応に変わっており違和感を覚えた。

また、避難所の受付をしている職員は防護服に身を包み、郡山市民は私服で普通に生活しておりこれもおかしく感じた。友人の母も、自分たちだけ防護服を着てなんで周りに安全なんて言えるんだと訝しげにしていた。

ともかく自分たちもスクリーニングを受けて避難所へ移動した。スクリーニングは、市もしくは県の職員が慣れない手つきでカウンターをかざしていたが、私の衣類からも放射線が確認されて驚いた。その数値は2時間早く郡山に到着した友人よりも高く、いわき市にあきらかに放射性物質が届いている証拠だと感じた。正直に、自分の体から放射性物質が確認されるというそれはとても怖いものだった。

また、スクリーニング場には、その時の基準で限量以上の被曝をしていたカメラマンもいて強制的にシャワーを浴びさせられていた。自衛隊の方が「3回洗っても落ちませんねえ・・・」「風呂に入れるしかないか・・・」というように扱いに困っていた会話を目の前で聞いた。こんな風に原発事故が広範囲に影響していて、当時ですら限量以上の被曝をしている人がいるなんて報じられていないし、ここまでとは想像がつかなかった。

午前中を過ぎて原発で爆発があった情報が入り、東電社員のご家族は長野県

へ移動するといひ。郡山を離れた。私達も東京に友人家族の親戚がいるので向かうことにした。郡山には3時間もいなかったと思う。

当時、県内は道路が所々封鎖されていたため、栃木県を經由して東京へ向かうより他ルートが無かった。3月13日まではまだいわき市から北茨城經由で東京へ向かうルートは封鎖されていなかったと友人の奥さんが知り合いに確認した。また、この道路の封鎖も車で近くに行くと通してくれるようなものだったとそこを通った人に友人が避難後に確認をしていた。

その日は宇都宮まで避難して1泊して15日に東京へ着き、私は16日に大阪へ来た。東京に着いたときなぜが鼻水に血が混じっていた。それまではティッシュを節約するために鼻をかんだりしなかった。自分の体に何が起きたのか改めて確認しないといけない、そう決心した。

改めて確認すると逃げている間に100km→200kmと逃げるべき範囲の情報はドンドン拡大していたと友人は述べ、私は大阪に着いたとき、後輩から確かな筋で300km圏内(静岡の東側)までは危険であるとの情報も得た。

これはとても大変なことで、あまりにも人の人生を大きく左右してしまう情報だった。だから周りの人に伝えられるだけ伝える努力をした。この間に原発事故の自分が見た実態を知り合いに伝えたいが信じてくれた人やそうでない人ははっきりと分かれてしまった。実際に避難をしてくれた人もいたが、政府発表を信じて原発事故の影響はほとんど無いと思っている友人もたくさんいた。

しかし事故後8ヶ月経ってみて当時の政府発表の確かさは揺らいでしまった。津波の被害に加えて次はもっと多くの方を巻き込んだ原発事故による放射能被害、この問題に皆で取り組んでいかないと日本の未来が危ないと私は思う。

関西県外避難者の会 福島フォーラムのご案内

代表 遠藤雅彦

東日本大震災から約9ヶ月を迎え、福島県では復興を目指すと共に、県外避難への意識が高まっております。ここ関西でも福島県からの避難者が多数身を寄せています。

さて、こうした県外避難者の現状ですが、被災者の所在はバラバラに離れてしまっているため、お互いの交流や、震災に対する意識共有が難しくコミュニケーションが円滑に行われておりません。

東日本大震災は今後何年間も現地や県外にいる避難者に対して影響し続けるものです。県外避難者のネットワークの不足が今後避難者の在り方に悪影響を与えるのではないかと危惧します。

そこで、関西に避難している県外避難者のネットワークである「関西福島県避難者連絡相談会」の設立を提言し、今後、県外被災者がコミュニケーションを円滑にし、お互いに孤立しないよう努めていきます。

なお、この度、名称を改めまして

「関西県外避難者の会 福島フォーラム」と致しました。今後はこちらの名称でアナウンスさせていただきます。ご確認ください。

また、「避難する人」と「現地に残る人」両方へのケアをしていけるように取り組んでいきます。東日本大震災における犠牲を精神的にも身体的にも減らしおけるように努めます。実質的な問題解決に重きを置いて活動します。それにはまず皆様からの相談と情報の提供も必要になります。相談をお寄せ頂けるだけでも避難者全体のためになります。是非ご協力ください。

また、一緒に活動して下さる方も募集しています。よろしくお願ひ致します。

発起人 遠藤雅彦

福島県いわき市→大阪府大阪市

副代表 高野正巳

福島県福島市→滋賀県長浜市

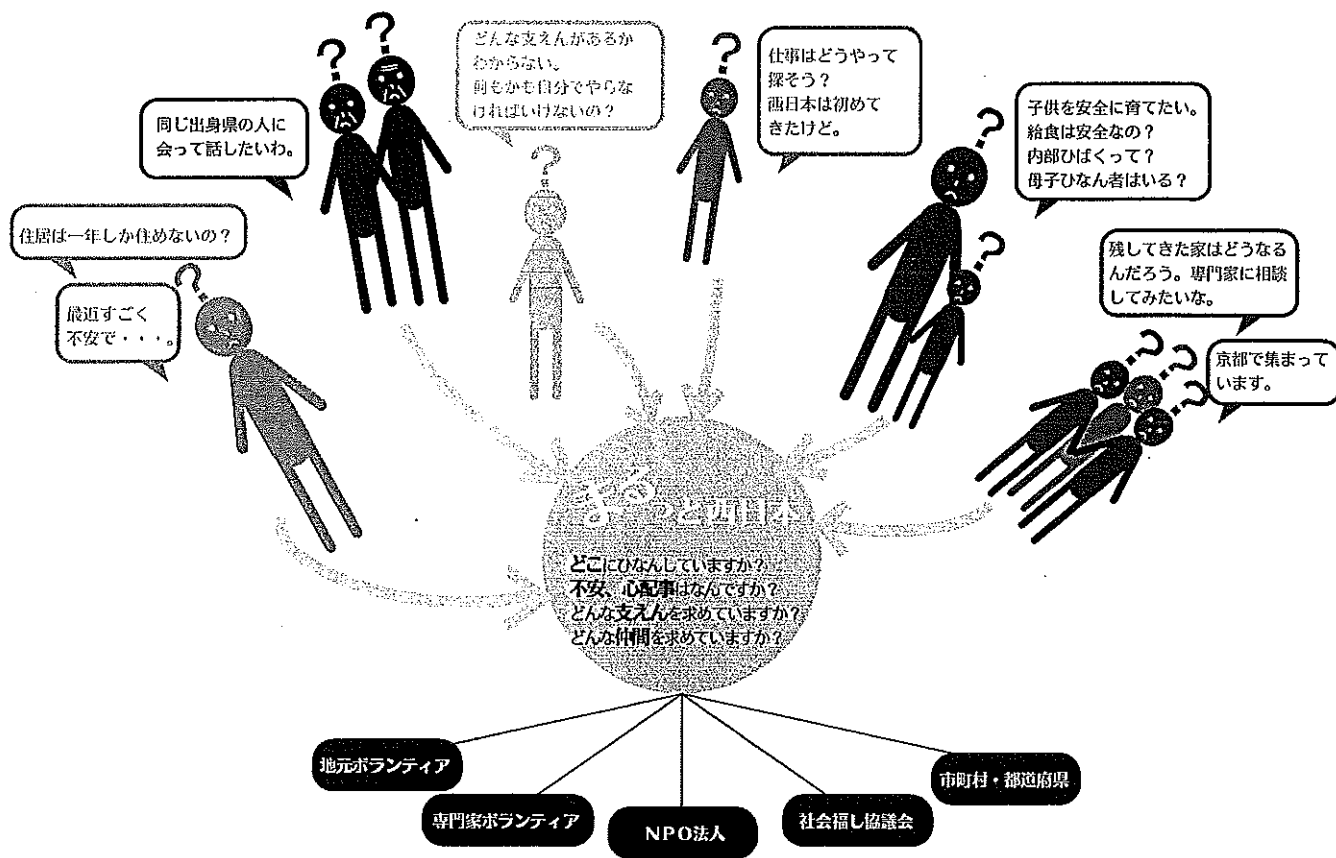
連絡先：遠藤雅彦 090-6852-7321

speedy.speedy.2@ezweb.ne.jp

避難した人どうし、地元の支援したい人も これからみんなで手をつなごう。

住み慣れた土地を離れ、家や仕事、学校の友達、知人、親戚、家族、地域との交流を失ったショックから私たちはまだ抜け出せずにいます。問題は山積みなのに、誰に何を相談したらいいのかがわかりません。

一方、避難者支援をしているNPOやボランティア団体からは「避難者たちがどこにいるのかわからない。見つける事ができず支援が届けられない」と言う困惑の声が上がっています。私たち県外避難者の会「西日本県外避難者連絡会」(略称「まるっと西日本」)は支援団体の情報をあなたの元に届け、避難者同士が連絡を取れるようにつながりたいと思っています。当事者どうしがつながることだけが、避難者がお互いを発見する唯一の方法です。



まるっと西日本

TEL 06-4964-1122

どんな支えんを求めていますか? どんな仲間を求めていますか?

「まるっと西日本」は3月末に西日本へひなんしてきた二人がひなん者どうしつながりあうためのネットワーク作りと支えん情報の提供のため、活動を始めました。WEBサイト、メールニュース、支えん者つながろうニュースを通じて西日本各地に散らばったひ災者たちに身近なひ災者グループの案内と支えん情報をお知らせします。あなたがどこにいるか教えてください。

避難者がつくった
避難者の連絡会が
できました!

541-0056

大阪市中央区久太郎町1-8-9船場中央ビル3F NPO法人街づくり支えん協会内

Email hotline@flexlife.net

www.maruttonishi.jmbo.com

被災者を取りまく環境と現在の状況

2011. 11. 28 被災者と支援者つながろう！まるっと西日本（東日本大震災 県外避難者連絡会）調べ

変化している現在の福島の現状

10月～11月に福島（南相馬市）に行き帰ってこられて来た方たちの感想

1. 町は何も変わっていないのに、電気が消えている家が多く、町がゴーストタウン化として明らかに人がいなくなってしまう。テレビに映っているのは敢えて人がたくさん住んでいるかのように見せている所を撮している。現地はもともと過疎化していた上に、更に過疎がすすみ、町としての存在感は既に失われている。もう二度と住めないのだと実感してショックを受けた。
2. ボランティアなどから支援物資が到着すると、ひきこもっていた住民が出てきて支援物資を受け取りいそいそとまた戻っていくのに会話がない。明るさが消え、お互いに無言で口を閉ざしている。住民はとげとげしく気持ちが苛立って人格が変わってしまったように感じる。
3. 避難者が一度避難して、安全宣言のでた南相馬市へ戻ってみてもかつての住民同士の交流が失われてしまった。一度でも避難してしまうともう元の住民に話しかけても答えはそっけない。もう二度と戻れないと感じるほどの疎外感を受けた。私達は老人で、事態が落ち着けば福島に帰れると思っていたが、その1%ほどの希望さえ失われた。二度と戻って住む事はできないと感じた。
4. 福島では住民が放射線物質についての単語を敢えて口にしない。怖くて口に出せないのか、何なのかわからない。こんなにも危険にさらされていて現実的に考えなければいけないのに誰もそれを口にださず、まるで何もなかったかのように住んでいる。関西へ避難している自分からみれば、「放射能」をタブー視するなんて自分の命を守ろうとしていないように見える。本当に何も考えていないとしたら怖い。小さな子供を連れて避難した人は多いが、僕は将来子供を産み出す10代や20代の若者が無関心で「考えすぎ」だと嘲笑していることが信じられなかった。彼らも早急に移住しなくてははいけないと思う。安全宣言を出してしまったために起こっている現象ではないのか。老人はいいとしても10代や20代の若者も大事にしなくてははいけない。(茨城、千葉、東京からの避難者も同様の回答)
5. 旧ソ連は除染をしていない。国民の税金を大量に除染に費やさず、疎開や移住への政策をすぐに始めるべきだと思うが、疎開を他府県に御願いたいと立候補していた福島件の大槌町の選挙では、その候補者が惨敗した。東電の社員が一生懸命対抗馬に投票していると地元では話題に。
6. 福島県庁に勤務する人は山形県へ避難させて、山形県から出勤している。福島は危ないと知っていてもそれを口に出さないが、態度ではそう示している。
7. 原発から近い地域では、東電の社員がバスをチャーターして住民を迎えにきてバスの中で

100万円ずつ配り避難させたが、道を一本隔てた所ではそういう支援は全くなく福島でもずいぶん差がある。そのことで住民同士がいがみあうハメになってしまった。

- 大阪弁護士会の広島の被爆者でもあり医師の肥田先生のセミナーを受けた。半年たったら福島の人たちはブラブラ病になるとおっしゃっていたが、8ヶ月たった今、もうブラブラ病になっていると福島に戻ったときに思った。一週間ほど滞在したが、町の人たちの目つきがおかしいと感じた。無気力で、無感情で、気力や感情を失っているように見える。知人が一度福島に戻り、「福島の人たちが何かおかしい」と聞いてはいたが本当にその通りだと感じた。先生のおっしゃっていた低放射線被曝による「ブラブラ病」が疑われる。

支援がない福島以外の避難者について

| | |
|-----|---|
| 出身県 | 宮城、茨城、千葉、東京、山形 |
| 住居 | 福島以外の人を関西では受け入れを拒否しているかのように支援がない 家屋破損の場合は支援あり。積極的な支援をしているのはNPOやボランティアのみ。 |
| 家電 | 日本赤十字から福島、宮城、茨城の避難者でかつ、市営住宅に入った人のみ。現在、府営、市営住宅に入れてもらえるのは福島の人のみなので当然、宮城と茨城の被災者は家電をもらえるのは福島の人だけ。 |

避難者の特徴

現在、福島からの避難者は関西では積極的に住居を提供しているが、自主避難の多くは東京電力福島原発事故による放射線汚染被害によるものなのに支援がない。メディアからもその点を注目されず、避難してきても全く支援がないため生活は一から自分で揃えなければならない。住居の支援すらない。

汚染が広がるにつれ、避難者は少しずつ増加中。

放射線物質は地表に落ちており、空間線量は少ないが風や雨で舞い上がり地表に近い生活をする子供への影響が高いので東日本での子育てが困難になってしまったためにやってきたという母親が多い。

避難の理由と避難先での暮らし

- 子供の健康被害が出てきたので避難を決意した。咳がとまらない。熱を頻繁にだす。鼻血がしょっちゅう出る。原発爆発前にはこういうことはなかった。明らかに免疫力が落ちていると感じる。子供の健康が心配なのでとりあえず夫を残して避難してきた。被爆症状ではないのだろうか。不安。(複数回答)
- 小学校で除染作業問題がPTAで頻繁にとりあげられるが、ほとんどアスファルトの場所がない田舎で、例え校庭を除染できたとしてもそれ以外の場所の除染、スクールゾーンを除染はどうするのか？除染問題が何も解決していないまま汚染された土地で育児をするのが無理だと思った。地元の友人によると運動会が終わった今も常に学校とPTAは除染問題でもめている。安心して暮らせなくなった。

3. 避難前の子供の小学校、幼稚園、保育園の給食が茨城県、福島産だった。茨城県産はつい最近も韓国で輸入を拒否されているが、日本の給食には出回っており給食に使われ流通している。お弁当持参を市のHPは許可しているが、水と土壤汚染もすすみ、今まで安心だった給食に恐怖を感じる。子育てにもいつも不安を抱くようになり、こんなにも恐ろしい世界を作った原発や東京電力、何もしない政治家が子供を守ろうとせずにも何も政策をとらない事にも恐怖を感じている。未来を明るいものだと思えなくなった。今年も茨城県の公立幼稚園で行事「芋掘り」が行われていた。先生たちは今年のさつまいもは「350ベクレル/一Kg」で国の基準値以下なので大丈夫ですと保護者に通達を出したが、国の基準値は震災後突然、現在の政権により引き上げられてしまったので、放射線廃棄物と同じ数値のレベルのものを食品にも適用している。乳幼児に適用する数値ではないことはもう誰でも知っているが、学校や幼稚園は敢えてそれを口にしないようにしており、国の言うとおりに・・・と言い張っていて子供を守ろうという気は全くない。避難するしかなかった。芋掘りは当然のように行われその後幼稚園で例年通り食べた。
4. 避難してきたが西日本でもときどき群馬や茨城、千葉などのセシウム降下量の多かった汚染地帯の産地の野菜が避難先の給食にも使われていた。市町村に産地を聞いた。学校の先生に相談し、東日本の子供が鼻血や咳で免疫力が低下し内部被爆についての説明をしたら、こころよくお弁当を持参することを勧めてくださった。関西の学校の先生の知識の深さに感謝している。東日本ではお弁当を持参したいという拒否する自治体もあると聞いている。(注 現在、京都府では雪印牛乳が給食にだされている。大阪の吹田市や兵庫県宝塚市など福島、茨城産の野菜を公立の学校や保育所の給食に出している。市町村は聞けば教えてくれるが、保護者に敢えて公表をしていない 大阪府茨木市の小学校ではお弁当持参を認めている)。
5. 自分が被災者だということを最近知った。東京から避難してきているが少数派だと思ったら避難者のグループに千葉や群馬の人がいた。復興イベントや支援は「がんばろう！東北」とかかかれていて、首都圏や関東圏の人はいってはいけないのかと疎外感を感じた。これから積極的に参加したいと思うが、「がんばろう東日本」にタイトルを変えてほしい。東北以外の避難者は多い。汚染された土地は広い。

東日本大震災による避難者の特徴 被災者の声

子供と母親が多い (子供は平均1~4名 主に小学生以下の低年齢)
 避難者は母子だけで父親は不在 (東日本で勤務)
 子供は情緒不安定 低放射線被曝かと思われる体調不良の子供もいる

10才までの子供を連れて避難してきた母親は純粋に子供の将来を守るために夫を東日本に残してきている。住居の支援がないため、とこかに賃貸住宅を借りなくては行けないし、かといって仕事を探す事も難しい。子供は突然の引っ越しに戸惑い、震災の影響で、精神的に不安定になっている。まだ子供の年齢も低い家庭が多く、母親自身も震災で究極の選択として、放射能汚染から子供を守る為に、仕事を辞めて避難してきている人も多い。子供も母親も不安定になっている上に、父親不在のシングルマザーのような状態で見知らぬ土地「西日本」で一から暮らし始めるのは困難がつきまとう。早急に西日本の市町村には住居の支援を要求したい。また、

子供たちは避難してから半年ぐらいは精神的なショックから頭痛や腹痛を訴える子供が多い。殆ど全員の子供たちが友達や学校を懐かしがって戻りたいと言っている。

秋から西日本の住宅支援は福島原発30キロ圏内もしくは家屋破損の家庭のみに支援（南相馬市の安全宣言以前は、避難者を広く受け入れていた）

3月末に放射線物質がばらまかれたときは、多くの母子疎開、避難者が西日本へ移動してきていた。多くの市町村は市営や府営、県営住宅を開放してくれていた。しかし、秋に南相馬市が安全宣言を出したとたんに、大阪府ほか各市町村は、主に福島原発30キロ圏内もしくは津波などによる家屋の破損家庭しか受け入れを拒否するように支援をうちきってしまった。避難をためらい東日本で生きて行こうと耐えていた多くの母子疎開者は8ヶ月がたち、子供の体調不良に不安を隠せなくなり、夫をおいて疎開することを決め、毎月避難を相談する電話がやってきているが、支援がうちきられてしまったために地元関西のボランティア団体も以前のように住居の案内ができず困っている。

福島と同じくらい高濃度汚染の千葉、茨城のホットスポットへの支援はない。

新聞やニュースでも汚染がどれほど広範囲だったかがはっきりしつつある。また、ホットスポットと呼ばれている高い放射能汚染地帯がたくさん数値ではっきりしつつある。とくに千葉県と茨城県の汚染は福島と同様の高い汚染を示している。それにもかかわらず、西日本の市町村、都道府県の支援は福島に限っており、他府県からの避難者を支援しようとしておらず、今回の震災に関する知識の少なさが伺われる。メディアのスポットが県外避難者に全く目を向けられていないせいか高汚染地帯のホットスポットから避難すれば将来の子供の健康を守れるという単純で当り前の事が理解されていないことに避難者の多くが嘆いている。

時々突然涙が出たり、無気力になる。

避難者の多くの人たちが、とにかく涙が突然でたり、ショックのあまり何も手につかなくなったり、外出する気持ちさえ持てなくなる、孤独と、明るい将来を描けないという。勇気をだして子供を守る為に、夫と離れ故郷を離れて避難してきたが、西日本でも震災があれば、もんじゅが、福井の原発が気になってとにかく疲れると言う人もいる。マグニチュード6を超えて故障しなかった原発は日本にないと言われている（中部大学 武田教授のwebサイトより）。このまま西日本にいても、結局原発から被害を受け、その後、国は東京電力に対しての責任を問わないなど、政府と電力会社への不信感と、生命の危険を感じるほどの震災が、人災だったことに苛立ち、憤り、そして怒りと不安を募らせる人が多い。

普通の暮らしをしていた。それを突然原発の事故ですべてを失った。

今まで、誰かにもものを与えられたりせずに普通に暮らしていた。仕事もち、子供を育てていた。社会に対しても反社会的な行動をとったことはなかった。それが突然、人生を変更させられ奪われてしまった。誰かや市町村からの支援がなくては生きられない生活に。

人生が一変し、自主的に自分の人生を組み立てていたのに誰かに何かを与えてもらわなければ困難な生活になってしまった。喪失感と共に、自分が何も悪い事をしていないのに一部の企業と政治家が利益を得るために原発という仕組みを作っていたということが徐々に明らかになっている。この悲しみを東京電力の人たちは味わった事がないと思うとやりきれないという人が多い。突然住む場所をさがしてウロウロし、家財を一から買い集め、小さな子供の手をひき、支援をもらって「すみません、ありがとうございます。」と乞食のような生活を強いられお礼をいわなければいけないという状況を東京電力の社員全員が味わうべきだという人もいた。支援はとても助かる。そして嬉しい反面、どうしてこんな事になったのかを思うと心が碎ける。

支援のイベント、何でもそうだけど、もうその話しをしたくないと思う時がある。

あまりにもショックがあり、そこから立ち直っていないと自分でも思う。だからもうその話をあまりしたくない。もうそのことを忘れてしまいたい。悪夢だったと思うようにしたい。

時々、声もかけられないほどショックを受けておられる方、目をあわせられない人もおられる。深い悲しみやショックを癒すには時間がかかる

春から夏にかけて避難した被災者が小さなコミュニティを作っている。

京都府山科 宇治市、奈良市、大阪市 など避難者が偶然たくさん住む場所に避難できた人は幸運だったとしかいいようがない。小さなコミュニティを作り、不便が全くないといっている。お互いに色々な話しを聞いたり話したりでき、すぐに仲良くなったとか。不安や孤独を感じない、子供同士も仲良くしているという話しもあった。しかし、現在は避難者の受け入れをストップしてしまったため、避難者は自分で賃貸物件を見つけなければいけなくなり、今後孤立化が進み、支援が行き渡らない、情報が交換しにくい状況が出来ている。

瓦礫を受け入れてしまったゆえに汚染が広がった山形県、東京都からの避難者が増加。

山形県、東京都からの避難の相談が増加中。山形の避難者からは、瓦礫の焼却を受け入れてしまったために放射線量が高くなり、子供をずっと山形で育てる事に不安を感じ西日本への移住を相談してくる方もおられる。

山形県、東京都は瓦礫の受け入れを表明し、次々に瓦礫を受け入れている。宮城県女川のがれき受け入れ協定締結発表 東京都 瓦礫焼却後の放射線量は1キロあたり2300ベクレル(2011.11.24 11:52 テレビ朝日 報道より)国の基準は8000ベクレル

街づくり支援協会

1992年発足。1995年阪神大震災が発生。被災地・兵庫から全国へ一時避難した県外避難者に対し、情報誌「りんりん」の発行、行政に代わり避難先での復興公営住宅の入居説明会の開催、神戸市の委託を受けて神戸市市外避難者相談窓口の設置などの活動を行いました。1999年「第53回神戸新聞社会賞」を受賞しました。大阪府認証特定非営利活動法人。

2011年4月、東日本大震災県外避難者のための相談ホットライン「わたしはここにいます」を開設。県外避難者の相談にあたっています。

また、毎週、関西2府4県の行政機関に電話で県外避難数を問い合わせ、まとめています。5月31日から継続的に統計を取っています。調査結果は毎週、「県外避難者支援団体メーリングリスト」で提供しています。

メーリングリストには現在約100の支援団体が登録し、情報交換を行っています。HP、ツイッター、フェイスブック、ブログなどで避難者、支援団体への情報を発信しています。

また、県外避難者自身の方のネットワーク「県外避難者西日本連絡会」（まるっと西日本）の設立に助力し、活動を全面的に支援しています。

今、一番差し迫った問題としてあげられるのが、公営住宅の入居期限の問題です。当協会の相談ホットラインに、滋賀県の避難者の方から「まもなく避難して6か月。公営住宅の期限切れで退去しなければならないのか」という相談が寄せられました。滋賀県へ当協会から働きかけた結果、1年へ延長されました。公営住宅入居は、原則1年として府県が多いですが、兵庫県等は2年までとしています。家賃は生活費の大きな部分を占めるので、支援格差が広がらないように、避難者に代わり行政に働きかけていきます。

また、来年3月には、震災後1年ということで、次々と公的支援が打ち切られ、雇用保険給付も終了します。できるだけ国・地方自治体からの公的支援が得られますよう、息の長い活動をしていきます。

大阪へ避難されてきている皆さんの声

～避難して現在困っていること、悩んでいること～

大阪弁護士会では、避難者向けにニュースをお送りしてきましたが、その中に何でも声を聞かせてくださいとお願いした紙を同封していました。これまでに60通以上のお返事があり、避難生活における大変な思いの一端を書き留めてくださいました。ぜひ、多くの方に理解していただきたく、今回、ご本人のご了解をいただき、その一部をまとめてみました。

◆福島県からの避難者の声◆

<福島県いわき市から避難>

福島県いわき市から孫と2人で大阪に避難しております。私の住まいはいわき市小名浜(オナハマ)というところで原発からは約50km圏内です。私の家は半壊も全壊もしておりません。ですから罹災証明も発行されません。

でも地震で家の中は瓦礫の山で壁も崩れ落ちました。また大きな地震がきたら今度は潰れるかもという恐怖と津波の恐怖で高台の小学校に4日間避難しておりました。

放射能の恐怖から4才の子供を守るために大阪に行けば守ってもらえると思い、決死の覚悟で避難して来ましたが、対象外ということで市営住宅も府営住宅も入居拒否されています。電化製品を揃えるのも困難なので仕方なくレオパレスを借りて入居しております。

私達は義援金をもらえる大正ではないので、全て自腹で払っています。

3.11の震災から今までずっと避難していますが、少ない預金も底がつかしました。

あげくの果てには、いっしょに避難していた娘(4才の子の母親)は現在私達が住んでいる大阪のレオパレスの家賃を払うためと私と孫の生活費の為にいわき市に戻り仕事をして仕送りしてくれています。

孫がいわきで通っていた保育園を退園しなければ大阪の保育園の入園申請が不可能ということで私は仕事につくこともできません。もう限界です。私達は放射能の恐怖から逃れるために勇気を出して安全な地に避難して来たつもりがただお金を使い果たしただけの悲惨な結果になってしまいました。

私達には何の選択もなかったんだということを思い知らされました。原発と余震と津波に怯えながら生活をしていく道しかないことがわからされました。これも運命とあきらめなくてはいけないと思うようにつとめてます。

福島県出身というだけで、いじめられているので見知らぬ土地に来るとどうしても警戒心がとれずにいましたが、大阪の方達は皆さんとても温かく安心しました。それだけはとても感謝しております。

私達地元では女川原発の東北電力の電気を使用しております。福島原発の東京電力は関東

の人達が使っています。その人達にいじめられているなんて、とても悲しくてあり得ないことと
思っています。「日本はひとつ」というには嘘でした。

住居の入居が駄目というなら、役所の駐車場の1台分をお借りできないでしょうか？

3.1114:46の地震で15:10に小名浜港に津波が来ると警報があり、港から近いところに済
んでいる私達は津波からのがれるために地割れしている道にはまらないように身体中震えな
がら車を運転して、渋滞の中をやっと高台の小学校の校庭に到着し、雪降る中、車の中で夜
を過ごしたことに比べれば、今の季節なら随分楽だと思ひ、1台分のスペースだけでもお借り
できればありがたいです。こんなことをお願いしている自分がみじめに思えてきました。避難
すればする程悲しくて気持ちが落ち込むばかりです。今まで生きてきて、こんな小刻みに涙を
こぼし、こんなに小刻みにため息をついた事は、今までなかったことです。疲れました。私達
なんかより、この震災でもっと苦しんで辛い思いをしている人が沢山います。一刻も早く助け
てあげてください。私は疲れました。

<福島県いわき市から避難>

私は、原発から30km圏内に住んでいました。家族とは離れ、仕事も失い、今後の生活に精
神的に苦しんでおります。東電から、仮払補償金と追加仮払補償金を支払われましたが、一
時収入では、どうにもなりません。今後の補償はあるのでしょうか？また、義援金など、たくさ
んの支援はどこで、どのように使われているのでしょうか？震災から半年、未だ復旧が進ま
ず、家族も福島県で不安な日々を送っております。私は、あの原発事故の影響から、自主避
難で大阪まで避難して参りました。本当に、大阪の方々の支援には助かっております。今後も、
どうぞよろしくお願い申し上げます。

<福島県いわき市から避難>

弁護士会の皆様にはいつもお世話になっております。弁護士様にもご相談にのって頂き、そ
して勇気づけられて本当に有り難く思っております。あれから更に色々な状況があり落ち着く
事はありません。私は大阪といわき市(福島県)を行ったり来たりの生活を送っております。今
回の震災による原発の放射能問題に関しては、年齢により考え方が大きく違うことが、重大
な悩みであり、家族をバラバラにしてしまう悲しい現状にあります。よって年老いた母を避難さ
せるのはとても困難ということに気付かされました。今回お便りしたのは、大阪弁護士会様か
らの封書が、私が以前避難していた豊中市の住所宛になっており、自動的にいわき市の住所
には届いております。豊中市に居た時は、孫と2人きりで孤独との闘いでしたが、些細な事
ですが、このような封書(弁護士会からのニュース)が届くだけでも、誰かに守られているよう
な気がして大変うれしく感動致しております。大阪市の新たな一時避難の住宅の住所をお知ら
せ致します。今後とも宜しくお願い申し上げます。

<福島県いわき市から避難>

①いわき市から、命からがら、避難して生活費、交通費(義援金を通じて、見舞金以外にも支給してほしい)。②罹災証明、被災証明書の使い方がわからないので、教えてほしい。③市県民税、車税はどうなるの?④放射能の車を大阪までもってきたけど、平成23年7月に車検切れるので、売るか廃車にしたいので教えてほしい。⑤1年間は、大阪市営住宅の契約なので、その後は、アパートかもしれないので、何かいい方法を教えてほしいです。

<福島県いわき市から避難>

避難区域外からの自主避難のため、現在のところ補償も受けられず、現在は民間住宅に無償で入居させていただいていますが、1年後が不安です。また、高校2年生の息子がおりますが、新しい学校にまだ慣れない様子で、卒業まで無事に通ってくれるか心配しています。

<福島県南相馬市から避難>

・借りあげ住宅制度が大阪は適応になっていない←借りあげ制度適応になっていない為、自分で住居をかりると負担大のうえ、赤十字からの電化製品が支援されない!!(東北地方や沖縄、兵庫などは適応されているが…。福島県との連携がうまく行ってほしい。)

- ・市営住宅が1年という支援がいまだ延長されていない。
- ・公共機関のTELがフリーダイヤルにしてほしい。
- ・一時帰宅や車の持ち出しによる交通費の支援や免除
- ・職業支援もハローワークでは資格のある人のものが多く、なかなかないのが現状です。

<福島県南相馬市から避難>

(1)生活再建の方向性がまだまだ、今の原発の状況、政府の対応のあり方から見えてこない。6ヶ月過ぎると月5万円の慰謝料で生活を行いという様な状況である。(子供の援助、自分の年金、などあるが)不満である。

(2)東京電力の社会的存在、必要性は充分解るが、今までにない過酷な事故を起こしているのだから、その責任は重い。役員の報酬など社会に明らかにして責任を負うべきではないか(ある団体では、職員の不正まで、役員が責任を負っている)

(3)電力会社は地域独占である。自由経済といわれているが、投機的に金が動くことが事由で、資本の移動が自由、労働者を買いたたく自由であり、庶民にとっては、ますます不自由な社会になっている。改革という言葉だけが、踊っている様だ。

(4)経済的にも、社会的にも、大変弱い立場の人間であるが、自ら声をあげてなければならぬと思っている。その上で、知的な力のある方々のお力添えをいただければと思っております。

<福島県南相馬市から避難>

私の家は、農業専業で生活してきた7人家族です。原発から20km圏内ですので、将来除染がうまくいって、農業が出来る土になるか？心配しています。生活を再建するために、東電、国との賠償交渉を長い間行っていかなければならないと考えております。人それぞれに志と夢を持って生きていると思っております。私は今74才ですが、それでも、まだまだやりたいこと、息子に残してやりたい事、持っております。最近、司法が行政よりになって来たと言われております。正しく賠償が行われ、生活の再建が出来る様努力するつもりであります。

<福島県双葉郡広野町から避難>

私達家族は3月に大阪にきて7ヶ月たとうとしています。東電請求で請求漏れや、どこまで請求できるか、請求書や、給料明細の原本まで送らなければならない事も不安です。

<福島県福島市から避難>

福島市(数値の高い渡利地区)より避難しています。小学生の子供2人を連れて来ました。新聞にも時々記事になる位の地域出身ですが、特に保障もされなく、自主避難なので、貯金を切りくずして逃げて来た次第です。一応、東電から請求書類は送ってもらっていますが未記入です。(国の指針が決まっていなく、自主避難は保障するもしないとも言えないとも言われました)。自主避難という事で、請求して良いものか考えております。

<福島県福島市から避難>

福島市(数値の高い渡利地区)より避難しています。小学生の子供2人を連れて来ました。新聞にも時々記事になる位の地域出身ですが、特に保障もされなく、自主避難なので、貯金を切りくずして逃げて来た次第です。一応、東電から請求書類は送ってもらっていますが未記入です。(国の指針が決まっていなく、自主避難は保障するもしないとも言えないとも言われました)。自主避難という事で、請求して良いものか考えております。

<福島県福島市から避難>

主人が福島市渡利で自営業をしているのですが、年間20ミリシーベルトを越える地点であると発表はあるのに、避難指定にはならず、何の保障もありません。子供が産まれたばかりなので、月に1度は今の所、会いに来てもらっていますが、収入も減り、交通費もかかり、仕事も休んで来なくてはならないので、いつまで続けられるのか。いつまで家族離れて暮らさなければならぬのかと不安です。

<福島県福島市から避難>

出身町は福島県でも比較的に空間の放射線量は低い値であるが帰っても本当に安全なのか不安。特に子供達への影響や健康被害が心配。帰ってから、地元で特に子供達が避難したことにより、からかいやいじめに遭い孤立しないか心配。生涯にわたって「福島県出身」とい

うことだけで理不尽な差別を受けないか心配。自主避難者なので賠償されないのか？と半ばあきらめかけているが、東電の対応の人事ぶりには納得いかず、政治にも失望する、前向きな気持ちになれない自分がいます。

<福島県双葉郡大熊町から避難>

原発から7kmしか離れていない所に住んでいた私は3月11日以来家を見ておりません。透析患者のため一時帰宅も叶わず、車も玄関に置きっ放し。幸い家は外見は大丈夫でしたが、中は足の踏み場もない状態でした。半年たってあきらめきれない着物や指輪洋服いろいろ思い浮かびますが、それら家の中のタンスの中に入っているものも汚染されているのでしょうか。もう二度と着られないのでしょうか。豊かな日々が懐かしいです。それらを全て奪った東電に怒りを感じます。高槻市のおかげで市営住宅に入れてありがたい反面帰りたいです。

<福島県双葉郡浪江町から避難>

借りあげ住宅制度が大阪は適応になっていない←借りあげ制度適応になっていない為、自分で住居をかりると負担大のうえ、赤十字からの電化製品が支援されない！！(東北地方や沖縄、兵庫などは適応されているが…。福島県との連携がうまく行ってほしい。)

市営住宅が1年という支援がまだまだ延長されていない。

公共機関のTELがフリーダイヤルにしてほしい。

一時帰宅や車の持ち出しによる交通費の支援や免除

職業支援もハローワークでは資格のある人のものが多く、なかなかないのが現状です。

<福島県双葉郡浪江町から避難>

今現在、娘が中学2年生なんです、その子の為に親類から家を借りて住んでいます。市が支援する住宅とかには住まず、個人的に借りている。家や駐車場代がかかっています。娘の為に今の所へ住んでいるのですが、大阪の方で借り上げ住宅とかにしてもらえないのでしょうか？後、福島の家のローンをどうしようかと思っています。

<福島県双葉郡浪江町から避難>

家のローンや置いて来た車の事や、その他のローン、3月12日震災で家を出たきり何も出来ていない。家族や子どもたちの事、親戚にお世話になっている事とか、自分自身が親戚に会ったりする以外、あんまり外へ出掛けなくなりました。

<福島県伊達市から避難>

3月、4月上旬の自主的避難者のうち、避難距離が長い人達ほど放射能の危険を深刻・重大に受けとめていた人達であり、この人達へ早急に、交通費等の損害を保障されたい。自主避難者への対応が遅い。

小1、3才の女兒2人を連れた避難者が、避難生活中に発病入院手術した。この手術中に、故郷の介護施設に残した母親が死亡。女兒の親権者的世話人の仕事に関わる損害や慰謝料等考慮してほしい。

福島県の小中学校の教員採用は無く、講師としての任用が無いことも決定している。24年度からの生活費保障をしてほしい。子どもの養育不可の状況となる。

<福島県伊達市から避難>

自主避難で、現在、原子力損害賠償の対象区域外ではありますが、対象区域の方々が書く、申請書について、もし手許にありましたら今後のため、送付していただきたく思っております。被災者記録ノート(通常版・事業者用)送付して下さい。

孫たちの学力低下や精神的障害が、どれほどなのか計ることができず、成長過程で心のダメージを心配しています。言動が心の発信といえますが、読みとれず、体調の限界もあり対処出来ません。

<福島県郡山市から避難>

福島県郡山市の自宅が地震の為に水没してしまい、1ヶ月近く避難所生活をしていました。福島での生活の再建を試みたのですが、原発(放射線量)の問題もあり、結局母子のみで大阪へ移住(避難)することになりました。郡山市は原発から60kmほどの距離があり、完全に自主避難という扱いです。夫は福島で仕事がある為月に1回、子供達に会えるか会えないかという状況です。2重生活や交通費等々もバカにはならず、本当に困っています。もちろんもつとひどい被害、被災に逢われた方々が多くいらっしゃることは承知致しておりますが、放射能が人体に与える悪影響が不明であるため、避難を決断した次第です。でも、これは、「損害」にはあたらないのでしょうか？ちなみに、我が子は、3才男児と0才女児の2人です。5月半ばまで福島県内で生活しておりましたが、毎週末、(平日もちろん屋外へ出られず、閉め切った部屋で地震の日以来過ごしていました)、山形県や新潟県へ、子供を公園で遊ばせる為だけに移動しておりました。それもとてもじゃないけれど、精神的、経済的に負担がかかりすぎた為、被災者受け入れをしている大阪府、大阪市のお世話になることに決めました。福島にいるママ友達も、みんな、本当に困っています。

<福島県郡山市から避難>

放射能による被ばくから自主避難してきています。(小さな子どもが居る為、やはり健康面心配で)帰るメドが全くたたない不安があります。幸い、大阪は私の地元なので、安心して居ることができますが、仕事の為、福島に残っている主人とは離れての生活になります。二重生活。また、福島にいる親せきに対する罪悪感がぬぐえません。(私たちだけ避難している罪悪感)震災の被害は、物が倒れたり、請われたりはありましたが、命は無事だった。津波 etc で甚大な被害を受けた方々からしたら私達はなんてことなかった…との思いから、“大阪府受入避

難者支援見舞金”が頂ける対象だとは知らず・・・見舞金を受けそびれてしまいました。もう遅いのでしょうか？(8月末で終了後・・・知りました。)
被災者記録ノートいただけるとありがたいです。

<福島県郡山市から避難>

福島県郡山市から、自主避難しました。主人は郡山市に残り子ども3人は、私の実家から東大阪市の小学校に通っています。私は、郡山市で仕事(パート勤務)があるため、東大阪市と郡山市を行き来しています。

原発の事故後、母子で東大阪に避難し、学校が始まるというので郡山に戻りましたが、通常より高い放射線量の中、子どもを生活させる事に悩み、夏休みに、東大阪に避難し、9月から、孔舎衛小学校に通っています。夏休みの間も私と主人は、東大阪市と郡山市を行き来し、かなりの交通費がかかっています。自主避難者は、本当に損害賠償を受けられるのでしょうか？(交通費の領収書がないものがあります。)

また、家族全員、住民票は、郡山市にあります。福島県では子どもの甲状腺ガンの検査をしているようですが、避難した子ども達は、避難先で、甲状腺ガンや内部被ばくの検査を受ける事ができないのでしょうか。子ども達の体(健康面)に対する不安が大きいです。

◆茨城県からの避難者の声◆

<茨城県水戸市から避難>

原発の情報を見ている、どれが本当でどれが嘘なのか分からず、どこで過ごすのが安全か、子供に何を食べさせればいいのか etc 毎日考えても答えが見つからない。

主人はまだ茨城で仕事を続けているので、健康面も心配だし、金銭的にも会社の休日の都合でも、月に1回来れたらいい方なので、子供と離れて暮らし続けることが、息子の成長の面でもとても心配。(大のパパっ子なので)。大阪で仕事を探して一緒に暮らすことを検討中だが、なかなかいい仕事もないし、無職になってしまったらと思うと簡単には動けず、時間だけが過ぎてしまう。

私自身、子供が幼稚園に行っている間だけでもパートをしようと思っているが、知り合いも親せきも誰もいないので、病気になっても子供を見ってくれる人がおらず、なかなか働きにも出られない。自主避難なので何も補償してもらえず、金銭的にもとても苦しく、いつまでこの生活を続けられるかわからない状況。茨城に戻っても子供の健康を守る自信はなく、本当に“難民”って言葉がぴったりの毎日を過ごしている。精神的にもだいぶキツイ。

◆宮城県からの避難者の声◆

<宮城県名取市から避難>

妊娠3ヶ月だったこともあり、原発事故の影響で関西に母子で自主避難してきました。主人と離れての二重生活で今後秋に出産も控えているため、働くこともまだできません。また、主人

の会社の扶養の関係で住民票は宮城のままで、今後も過ごすと思います。その際の子供(5才)と新生児の今後の心配です。(しばらく帰るつもりはないので。たぶん数年単位。)それと出産直前に産院近くの生駒市に引越す予定で、自治体や市の対応がなされているか心配しています。(罹災証明はありますが、民間の家をお借りする予定で、そうすると、県でサポートできないとのこと。今後大丈夫か?)

<宮城県石巻市から避難>

被災して休業中であり年金給付まで年月がかかる為、生活費が少なくなっています。早く生活再建支援制度により給付が欲しい。年金給付が今63才なので被災者には65才からの制度の見直しがあってもいいのではないかと思います。

石巻市では、復興計画案が出てきていますが、もとの自宅のあった土地には再建ができないため、市に買取をしてもらって、他へ移るしかありません。事業も再開できません。土地の買取だけでなく事業の営業補償もしてほしいです。

<宮城県気仙沼市から避難>

3月29日に大阪に避難して来ています。年金のことですが長男が、私の代理で気仙沼の信用金庫の支店に行ってもらったところ、「本人でないとダメ」と断られ、そのままになっております。大阪から電話代も、ままになりません。居候の状態です。体調を崩して入院しており、気仙沼に戻りたくてもためらってしまいます。仮設住宅へ入居申し込みしたところ、当選しても鍵をもらって1週間以内に入居しないといけないと言われ、体調のこともあり、そんなにすぐに移動できないので困っています。